

# 地震による 火災を防ぐために

地震でこわいのは火災による二次災害です。たとえ小さな揺れでも、必ず火の始末をしましょう。万一、火が出たときは初期消火に努めてください。消火は最初の3分間が勝負です。ただし、一般の人が消火できるのは天井に火が回るまで。それ以上燃え広がった場合は危険ですから、消防士にまかせましょう。

## 初期消火 の 3原則

### 早く知らせる

小さな火事でも一人で消そうとしない。大声で隣近所に助けを求め、ただちに119番通報する。

### 早く消火する

ボヤのうちに消し止められるかどうか分かれ目。消火器や水だけでなく、毛布でおおうなど手近なものをフル活用する。

### 早く逃げる

天井に火が移ったら、いさぎよくあきらめて避難を。その際、燃えている部屋のドアや窓を閉め、空気を遮断する。

## 火元別初期消火の方法

### 油なべ



あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がないときは、濡らした大きめのタオルなどを手前からかけ、空気を遮断します。

### 石油ストーブ



真上から一気に水をかけます。石油がこぼれて広がっていたら、毛布でおおってから水をかけて消火。

### 衣類



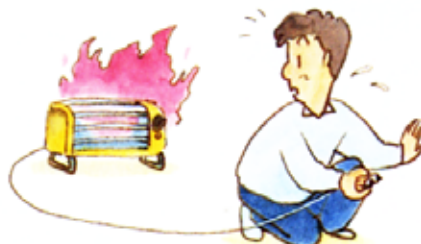
着衣に火がついたら、転げ回って消火。髪の毛の場合は化繊以外の衣類やタオルなどを頭からかぶります。

### 風呂場



火勢が強まる危険があるのですぐ戸を開けるのは禁物。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火。

### 電気製品



いきなり水をかけると感電の可能性が。プラグを抜いて(できればブレーカーも)、消火を。

### カーテン・ふすま



火がついたら大変危険。引きちぎり、蹴り倒して火を天井から遠ざけることが先決です。

